

牛久：学校周辺に見る自然

第59号

ひたち野みずべ公園(ひたち野うしく小)

2021年3月13日発行

< 幼虫で越冬する虫たち >

ひたち野うしく小4年生と歩いた、冬のみずべ公園。今回は、^{ようちゆう}幼虫^{ふゆご}で越冬する虫たちです。



^{なふだ}名札^{みき}と幹^{みき}の間で、ヨコヅナサシガメ^{ようちゆう}幼虫^{しゅうだんえつどう}が^{ごんちゆう}集団越冬^{ごんちゆう}していた。

秋の観察を覚えていた子がけっこういて、うれしく思いました。アカメヤナギの名札と幹の間に、たくさんのヨコヅナサシガメ幼虫がたまって越冬していました。グロテスクな姿ですが、葉を食べてしまう虫たちを退治してくれる、木にとってはありがたい昆虫です。これほどではありませんが、さくらやクヌギの幹のくぼみにも、小さなかたまりが見つかりましたね。



左から、オオミノガ、ミノガ、チャミノガのみの。右2枚は不明(たぶん、左がオオミノガ、右はミノガ)。

みのむしも、オオミノガ、ミノガ、チャミノガなど、いろいろな種類が見つかりました。中には^{ようちゆう}幼虫が入っていますが、中にはすでに羽化して空っぽのものもあります。



空っぽと言えば、イラガの^{から}から^{まゆ}繭も見つけましたね。^う羽化^かした時の^{あな}穴が^ああいています。からでないものは、中にさなぎ直前の^{ようちゆう}幼虫が入っています。幼虫の場合も、寒さや乾燥に耐えられるように、いろいろなくふうが見られましたね。幼虫ってすごい！

【理科支援員：宮内】

イラガの^{まゆ}から繭。